

資料 6

オーテピア高知図書館サービス計画進捗状況(R2.6.12 会議資料)

- | | | | |
|---------------------------|-------|-----------------------------|-------|
| 1 地域を支える情報拠点機能の充実 | | 3 利用者に応じた図書館サービスの充実 | |
| (1)資料・情報の提供(貸出し・閲覧・予約) | … P1 | (1)児童サービス | … P12 |
| (2)高知県関係資料の収集・保存・提供 | … P2 | (2)ティーンズ・サービス | … P14 |
| 2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援 | | (3)多文化サービス | … P16 |
| (1)レファレンス・サービス | … P3 | (4)図書館利用に障害のある人へのサービス | … P17 |
| (2)課題解決支援サービス | | 4 連携・支援及び図書館の活用 | |
| ①ビジネス・農業・産業支援サービス | … P4 | (1)市町村立図書館等への支援(県立図書館機能) | … P19 |
| ②健康・安心・防災情報サービス | … P6 | (2)高知市全域サービスの拠点(市民図書館機能) | … P21 |
| (3)情報リテラシー向上支援サービス | … P8 | (3)県立学校図書館等との連携・協力(県立図書館機能) | … P22 |
| (4)行政支援サービス | … P10 | (4)中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携 | … P23 |

サービス指標の状況

目 標 (平成33年度)	実 績 (令和2年3月末日現在)	評 価 (令和元年度の実績)
■ オーテピア来館者数 100万人	■ オーテピア来館者数 1,028,441人	■ オーテピア来館者数 ○ (達成)
■ 年間個人貸出点数 110万点	■ 個人貸出点数 1,064,469点	■ 個人貸出点数 ○ (ほぼ達成)
■ レファレンス件数 3万件	■ レファレンス件数 37,914件	■ レファレンス件数 ○ (達成)
	実 績 (開館日～令和2年3月31日)	
	■ オーテピア来館者数 1,775,934人	
	■ 個人貸出点数 1,776,908点	
	■ レファレンス件数 67,955件	

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
1 地域を支える情報拠点機能の充実					
	(1)資料・情報 の提供 (貸出し・閲 覧・予約) 資料、貸出 し・予約・リ クエスト、展 示、利用ガ イド、職員研 修	図書館は、資料や情報を 収集・保存し、利用者の求 める情報を提供すること を目的としてサービス を行っています。 資料は、館内で自由に閲 覧できるだけでなく、好き なもの好きな時間に読 めるよう、貸出しも行って います。希望の資料が貸 出中の場合には、予約す ることができますし、所蔵 していない資料は、他館か らの取り寄せや購入等に より、利用者のリクエスト に積極的にお応えします。 利用者の多様な資料要求 等に応えるため、「幅広い 資料の収集」を行い、必要 な情報にアクセスできる ようにサポートしやすい体 制を準備するなど、「利用 しやすい環境」を整備しま す。 また、おもてなしの気持ち を持って、「誠意ある対応」 を常に意識しながら、資 料・情報を提供します。 利用者はさまざまな利用 スタイルに合わせ、閲覧席 や静寂読書室、グループ 室、ラーニング・コモンズ のほか、自習ができる学 習室を利用できます。ま た、館内には、セルフ式貸 出機やセルフ式予約受取 コーナーを設置します。窓 口での混雑を和らげ、待ち 時間の短縮を図るととも に、プライバシーに配慮し たうえで、利用者自身で手 軽に借りられるようにしま す。	①資料の収集・提供 ○利用者の多様なニーズに応える資料の収集・提供 R元資料購入費 184,265千円(県102,195千円、市 82,070千円) うちオーテピア高知図書館分133,865千円(県(市町村支 援分含む)102,195千円、市31,670千円) 《一般図書》 【取組】図書受入24,466冊(購入:19,842冊 寄贈等: 4,624冊 H31.4～R元.8月末) 【評価・課題】非流通図書等、書店等で購入できない場合がある。 《新聞・雑誌》 【取組】新聞・雑誌受入:新聞144紙・雑誌1,579タイトル 雑 誌受入5,249冊(うち購入4,030冊、寄贈等1,219冊 H31.4～R元.8月末) 【評価・課題】外国語の新聞・雑誌が少ない。 《電子書籍》 【取組】利用可能タイトル数:3,990 閲覧:1,580 【評価・課題】導入当初と比較すると閲覧回数が減少してお り、さらに広報を行っていく必要がある。 ②貸出し・予約・リクエスト ○セルフ貸出機等の利用 【取組】ボランティア団体「オーテピアンズ」の協力などによりセ ルフ貸出機の利用の促進を図った。 【評価・課題】8月末現在の使用率は約77%。 ○資料のリクエスト・取り寄せ(相互貸借) 【取組】リクエストの受理から購入決定まで一週間以内として いる。 相互貸借実績(借受数):294件 【評価・課題】リクエストの量が多く一週間以内で対応できな いケースがある。	①資料の収集・提供 ○利用者の多様なニーズに応える資料の収集・提供 R元資料購入費 184,265千円(県102,195千円、市 82,070千円) うちオーテピア高知図書館分133,865千円(県(市町村支 援分含む)102,195千円、市31,670千円) *いずれも予算額 《一般図書》 【取組】図書受入56,539冊(購入:49,309冊 寄贈等: 7,230冊) 【評価・課題】非売品など書店等で取り扱ってない本も多く、 資料の購入に支障がある。 《新聞・雑誌》 【取組】新聞・雑誌受入:新聞147紙・雑誌2,458タイトル 雑誌受入15,545冊(うち購入9,544冊、寄贈等6,001冊) 【評価・課題】契約の相手方が多く、支払い等事務手続きが煩 雑。官庁等で発行されている雑誌の受入が少ない。 《電子書籍》 【取組】利用可能タイトル数:4,980 閲覧:3,241 【評価・課題】サービス(=電子図書館)開始後の最初の有効 期限が令和元年9月だったが、有効期限が切れた利用者の 登録更新が進んでいない。貸出数は12月末時点ではいった ん落ち込んでいたが、以後は回復している。 ②貸出し・予約・リクエスト ○セルフ貸出機等の利用 【取組】開館後一年半以上経過し、セルフ貸出機使用率は約 78%と横ばい状態が続いている。 【評価・課題】一定数はカウンターでの貸出しを望んでいると 思われるが、利用者の選択肢の一つとしても、マンパワーを確 保する点からもセルフ貸出機のさらなる活用PRが必要。 ○資料のリクエスト・取り寄せ(相互貸借) 【取組】相互貸借は、昨年1年間の件数(639冊)より、約 10.4%増えている。実績(借受数):706件 【評価・課題】リクエストも増え、そのうち購入できない分が相 互貸借に回っているが、窓口業務時間の増加により、相互貸 借の業務が担当職員の負担となっている。	○書店等で取り扱われて いない資料については出 版者から直接購入してい る。 ○雑誌は休止するのもの も多く、利用者のニーズを意 識しながら新たな雑誌購 入を検討する。官庁等が 発行する雑誌について寄 贈依頼を行う。 ○電子図書館の登録有効 期限についてはウェブ・サ イト等で周知した。新型コ ロナウイルス感染予防で 密接を避けるため、広報 紙等でさらに利用の周知 を図る。(4月以降登録者 は増加) ○推進すべき選択肢の一 つとして、さらなる周知を 図る。 ○相互貸借担当内で各業 務の引継がより円滑にで きるように、マニュアルを 見直す。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(2)高知県関係資料の収集・保存・提供 収集、保存、提供	高知県に直接関係する図書や雑誌、新聞、パンフレット、地図、DVD、CDなどだけでなく、高知県にゆかりのある資料も高知県関係資料として、収集し、提供します。 また、高知県や県内市町村、関係団体が作成した資料(行政資料)等についても積極的に収集し、提供します。 図書館の3階には、高知県関係資料を集めた専用のコーナーや、レファレンスのほか、貴重資料を閲覧するための部屋、調査や研究等の際に利用する研究個室等を設けており、さまざまな利用スタイルに合わせ利用できます。 現在、所蔵している古文書・古記録等の歴史的資料については、適切な保管を行います。また、重要なものやニーズの高いものについては、順次、デジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。	<p>①資料の収集・提供 ○資料の収集 【取組】年度当初に県市の各所属に寄贈依頼を発信。また県内市町村に対してはFAXで行政資料の寄贈を依頼した。</p> <p>【評価・課題】館内の市町村行政資料コーナーの認知度が上がっており、県・市町村とも寄贈される行政資料の数が増えてきている。</p> <p>②貴重資料の保存 【取組】文化財IPM(※)の考えに沿って定期的に貴重書庫の環境調査を行うとともに、書庫内の清掃も実施した。結果を館内で共有。 【評価・課題】特に問題は発生していない。</p> <p>③デジタル化資料のウェブ・サイトでの公開 【取組】(県)前年度にデジタル化した37点の資料についてはデジタルギャラリーに追加済み、加えて3点の史料の翻刻文を掲載した。 (市)公開した内容のブラッシュアップを行っている。 【評価・課題】ウェブ・サイトでの公開数が増えていることにより、データの提供の依頼が増えるなど、一定の成果が出ている。 県の資料について、多くの未整理資料があり、目録データの作成は進んでいない。</p> <p>※IPM(総合的有害生物管理)とは、農業分野をはじめ、薬剤だけに頼らず生物被害を防除する考えで行われている手法。</p>	<p>①資料の収集・提供 ○資料の収集 【取組】(県)年度当初に県庁各課及び出先機関等に対してはメールで、県内市町村に対してはFAXで行政資料の寄贈を依頼。 (市)年度当初に市役所各課へ寄贈を依頼。また、新庁舎への引越に伴い、図書館に所蔵のない高知県関係資料の引取りを実施。 【評価・課題】館内の市町村行政資料コーナーの認知度が上がってきたこともあり、県及び市町村とも寄贈される行政資料の数は増加。市町村の行政資料に関して、各市町村から最新の資料が寄贈されていなかったりと、継続して寄贈されないケースがある。</p> <p>②貴重資料の保存 【取組】定期的に貴重書庫の環境調査を行うとともに、書庫内の清掃も実施。結果を館内で共有。 【評価・課題】特に問題は発生していない。</p> <p>③デジタル化資料のウェブ・サイトでの公開 【取組】(市)公開中の資料を随時ブラッシュアップ(分類作業、目次・見出しの入力等)。寺田正写真文庫の画像データ登録を行い、5,400点の資料を公開した。 (県)23点の資料の画像データを作成。Musethequeに登録する目録データについては、現在田岡典夫文庫の分を作成中。 【評価・課題】(市)ウェブ・サイトでの公開によってデータ提供の依頼が増えるなど、一定の成果が出ている。令和元年度は錦絵や絵葉書の資料撮影を行った。 (県)徐々にコンテンツが充実している。またレファレンスで使用するケースや、ギャラリーを見た利用者から画像の利用申請が寄せられるケースも増加。目録データの作成については、田岡典夫文庫(文書箱にして37箱)のうち文書箱11箱分(資料点数927点)の作成を終え、現在公開準備中。引き続き田岡典夫文庫の目録作成に努める。</p>	<p>○昨年度寄贈があったが今年度寄贈がない資料などを細かく確認し、電話等により個別に寄贈依頼する。繁忙期の年度当初を避け、夏季にメール等で周知を図る。 県庁内の部長・副部長級会議においても周知を図る。</p> <p>○トラップ調査の概要や目的について、館内に周知徹底する。</p> <p>○(市)引き続き、分類作業、目次・見出しの入力等、目録情報の充実にも努める。また、資料撮影を行い、随時公開していく。データ化した資料の公開の準備を計画的に進める。 (県)引き続きコンテンツを充実させるとともに、さらに活用されるようPRしていく。また、目録データの作成が円滑に進められる方法を検討する。</p>

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援					
	(1)レファレンス・サービス資料、利用ガイド、連携、PR、職員研修	レファレンス・サービスとは、図書館司書が利用者と一緒に、資料や情報を調べる手伝いをするサービスのことです。「聞いてよかった」と利用者の皆様に満足していただけるよう、調べものをサポートします。「この本は図書館にあるか」といった質問から、暮らしや仕事の中で生じるさまざまな疑問や調べものまで、気軽に問い合わせただけのよう、レファレンス専用窓口を2階、3階の各フロアに設け、レファレンス・サービスを提供します。図書館に来られない方に対しては、電話やFAX、メール、郵便に加え、図書館のウェブ・サイト上に専用フォームを設け、インターネットでもレファレンスを受け付けます。利用者が、自ら調査・研究を行う際に役立つよう、ブックリストやパスファインダーなどを整備します。また、閲覧席やグループ室など用途に応じたスペースの配置や、館内全てのフロアで無線LANがつながるよう、環境整備も行います。	<p>①資料の収集・提供〔再掲〕 ○利用者の多様なニーズに応える資料の収集・提供 R元資料購入費 184,265千円(県102,195千円、市82,070千円) うちオーテピア高知図書館分133,865千円(県(市町村支援分含む)102,195千円、市31,670千円) *いずれも予算額 《一般図書》 【取組】図書受入24,466冊(購入:19,842冊 寄贈等:4,624冊 H31.4～R元.8月末) 【評価・課題】非売品等、書店等で購入できない場合もあり支障がある。 《新聞・雑誌》 【取組】新聞・雑誌受入:新聞160紙・雑誌1,579タイトル 雑誌受入5,249冊(うち購入4,030冊、寄贈等1,219冊 H31.4～R元.8月末) 【評価・課題】外国語の新聞・雑誌が少ない。</p> <p>②利用ガイド ○ブックリストやパスファインダーの作成 【取組】館全体ではブックリスト30種類、パスファインダー7種類を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布している。 【評価・課題】テーマを増やすとともに、内容の更新が必要となっていないかなどをチェックし、適宜見直していく必要がある。</p> <p>○ウェブ・サイト等によるレファレンスの受付 【取組】レファレンスに関する研修に職員を派遣するなどし、職員のスキルアップを図った。 レファレンス受付件数:17,998件 国立国会図書館レファレンス協同データベース公開件数:0件(※当年度) 【評価・課題】引き続き職員のスキルアップに努める必要がある。</p>	<p>①資料の収集・提供〔再掲〕 ○利用者の多様なニーズに応える資料の収集・提供 R元資料購入費 184,265千円(県102,195千円、市82,070千円) うちオーテピア高知図書館分133,865千円(県(市町村支援分含む)102,195千円、市31,670千円) *いずれも予算額 《一般図書》 【取組】図書受入56,539冊(購入:49,309冊 寄贈等:7,230冊) 【評価・課題】非売品など書店等で取り扱っていない本も多く、資料の購入に支障がある。 《新聞・雑誌》 【取組】新聞・雑誌受入:新聞147紙・雑誌受入15,545冊(うち購入9,544冊、寄贈等6,001冊)) 【評価・課題】契約の相手方が多く、支払い等事務手続きが煩雑。官庁等で発行されている雑誌の受入が少ない。</p> <p>②利用ガイド ○ブックリストやパスファインダーの作成 【取組】館全体ではブックリスト57種類、パスファインダー7種類(ビジネス2種類、多文化2種類、健康安心3種類)を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布している。 【評価・課題】テーマを増やすとともに、内容について更新が必要となっていないかなどをチェックし、適宜見直していく必要がある。</p> <p>○ウェブ・サイト等によるレファレンスの受付 【取組】レファレンスに関する研修に職員を派遣するなどし、職員のスキルアップを図った。 レファレンス受付件数:37,914件 国立国会図書館レファレンス協同データベース公開件数:0件(※当年度) 【評価・課題】引き続き職員のスキルアップに努める必要がある。</p>	<p>○連携機関と協力しあい、出前図書館や展示実施の機会に引き続きブックリストの作成を継続して行う。問い合わせの多いものから優先的にパスファインダーの作成を進める。</p> <p>○職員を研修に派遣するとともに、研修内容を館内で共有し職員全体のスキルアップをはかる。国立国会図書館の職員派遣型研修の活用も検討。</p>

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
(2)課題解決支援サービス					
	①ビジネス・農業・産業支援サービス資料、利用ガイド、レファレンス、連携、情報リテラシー、アウトリーチ、PR、職員研修	<p>県内で働いている方やこれから働きたい方、起業したい方等に対し、図書館の強みである資料を活用しながら、仕事に関するさまざまな課題解決を支援します。図書館3階の「ビジネス・農業・産業支援スペース」では、6～7万冊の関連資料(自然科学含む)をまとめて配置します。また、利用者が気軽に相談できるようにレファレンス・カウンターを設置し、ビジネス支援担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。</p> <p>中心市街地に立地し、また、人の集まりやすい図書館の強みをいかして、ビジネスに役立つ講座や学習会、相談会等を専門機関等と連携して開催します。</p> <p>あわせて、図書館が仕事に関する情報収集に役立つということを多くの方に知ってもらうため、出前図書館等を通じて、外に出て積極的に「提案」や「周知」も行います。</p>	<p>4</p> <p>①資料 ○資料の収集・提供 【取組】開架には、図書53,165冊、雑誌3,790冊を配架している。 リクエストや利用者のニーズに応じて本や雑誌を選書、購入した。連携機関からリクエストや推薦依頼があった資料も購入した。書架担当を置き、書架の定期的なチェックを開始した。</p> <p>評価・課題】ITコーナーがジャンル別に整理されたことで、利用者が本を探しやすくなった。書架チェックを1年を通して効率的・効果的に行える体制を構築した。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】契約データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の「全国の地域面」を新しくオプション契約したところ、レファレンスで活用できた。 関係機関にデータベースのPRを行った。今年度のデータベース講習会開催についても検討している。</p> <p>【評価・課題】引き続きデータベースの周知を図り、利用を促進する必要がある。</p>	<p>①資料 ○資料の収集・提供 【取組】開架には、図書54,962冊、雑誌2,958冊を配架。 ・リクエストや利用者のニーズに応じて本や雑誌のほか、連携機関からリクエストや推薦依頼があった資料も選書・購入。 ・IT系資料を整理してITコーナーに配架、ビジネスコーナー付近にビジネス系新聞を設置、展示場所に合わせた資料管理を行ったほか、書架担当を置き、書架の定期的なチェックを開始した。</p> <p>【評価・課題】ITコーナーがさらに整理されたことで、名著本が多く配架され、利用者が本を探しやすくなった。書架チェックを1年を通して効率的・効果的に行える体制を構築した。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】データベース利用件数：高知新聞1,222件、その他2,016件。 ・2020年1月から館内ツアーでミニデータベース講座を開始。 ・図書館活用講座の中で電子図書館の紹介(2/20)。 ・データベース講座を開催(2/27.2/28)。</p> <p>【評価・課題】県立大学生の利用が増加し、学生へ一定浸透したと考えられる。引き続きデータベースの周知を図り、利用を促進する必要がある。 R2年度から小規模のデータベース講習会開催を検討している。</p>	<p>○ITコーナー以外でも、内容、資料の入れ替えなどを検討し、充実を図る。引き続き、各関係機関との連携を深め、収集を強化していく。</p> <p>○令和2年度から導入する新データベース2種(「日本農業新聞データベースサービス」「日本マーケットシェア事典オンライン」)を積極的に広報する。その他のデータベースについても、積極的な利用及びデータベース講習会への参加を呼びかける。</p>

②レファレンス・サービス

【取組】レファレンス件数:1,493件(全体レファレンス件数:17,998件)

高知新聞(7/27)に図書館のレファレンスがビジネスに役立つ事例を紹介する記事が掲載された。

4月に作成した「業界・市場動向」のパスファインダーがレファレンスで役に立った。

【評価・課題】新聞記事や図書館PRの効果で「レファレンス」の認知度が上がったと感じている。

レファレンスの増加に対し効率よく対応できる仕組みを構築していく必要がある。

レファレンスにおける質の向上や時間短縮のため、職員のデータベースの検索技術の向上を図る。

③連携

○他機関と連携したセミナーや相談会等の実施

【取組】

共催事業として、若者進路相談会を毎月第2土曜日に実施。また、6/12、6/15に特許商標の検索方法などに関する「知的財産権セミナー」を実施。

【評価・課題】

オーテピアのグループ室を活用し他機関と連携したセミナーができたことは成果だが、参加者が少なかったことが課題。

○アウトリーチ・サービスの実施

【取組】

アウトリーチ担当を中心に、外に出向いてのサービスPRや関係機関がオーテピアの諸室を利用する機会をとらえ出前図書館(11回)やビジネス支援サービスのPRを実施した。

新規採用職員研修(7回)、土佐MBA関連(3回)、犬・猫の飼いかた講習会、産学官民コミュニティプレゼン大会など。

【評価・課題】積極的に外部への提案やサービス周知ができた。参加した方から別の場で説明の機会を提供いただく展開もあった。また、出前図書館に対するニーズは前年度より高まっているが、職員の都合がつかず断らざるを得ないこともある。

②レファレンス・サービス

【取組】レファレンス件数:2,961件(全体レファレンス件数:37,914件)。

レファレンス協同データベースへの登録作業を開始した。

【評価・課題】新聞記事や図書館PRの効果で「レファレンス」の認知度が上がったと感じている。

レファレンスの増加に対し効率よく対応できる仕組みを構築していく必要がある。

レファレンスにおける質の向上や時間短縮のため、職員のデータベースの検索技術の向上を図る。

③連携

○他機関と連携したセミナーや相談会等の実施

【取組】

共催事業として、若者進路相談会を毎月第2土曜日に実施。相談件数:29件。

【評価・課題】

オーテピアのグループ室を活用し他機関と連携したセミナーができたことは成果だが、参加者が少なかったことが課題。『得する街のゼミナール講座』(11/21、11/23)で紹介した土佐和紙について、参加者が情報提供した文房具店から図書館に問合せがあった。高知市との包括協定企業との連携セミナーを検討中。

○アウトリーチ・サービスの実施

【取組】

アウトリーチ担当を中心に、外に出向いてのサービスPRや、関係機関がオーテピアの諸室を利用する機会をとらえ出前図書館(11回)やビジネス支援サービスのPRを実施した。

新規採用職員研修(7回)、土佐MBA関連(4回)、犬・猫の飼いかた講習会、産学官民コミュニティプレゼン大会など。

【評価・課題】積極的に外部への提案やサービス周知ができた。1/23の土佐MBA専科ではビジネス支援サービスの説明を実施した。県産業振興センターや県産学官民連携センターと次年度の連携について協議を開始した。また、出前図書館に対するニーズは前年度より高まっているが、職員の都合がつかず断らざるを得ないこともある。

○パスファインダーの作成や国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録を進める。分類入りマップを完成させるとともに運用の整理を行い、効率的なレファレンス体制を構築する。

○セミナー・相談会について、より積極的な広報を行うとともに、貴重資料データの商用利用などについてPRに努める。

○行政機関を通じて行政機関以外へのアプローチを増やし、連携団体を増やしていく。

○出前図書館については、PR効果の高い機会の精査、新規団体を優先する等により、連携をより広げる。支援機関には、連携協議などの場での企業や団体の紹介を依頼した。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) 6 ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	②健康・安心・防災情報サービス資料、展示、レファレンス、連携、情報リテラシー、アウトリーチ、職員研修	<p>図書館の3階に、健康(病気の予防・健康の維持増進につながるスポーツなど)や社会保障、社会福祉、防犯、事故、防災等に関する6～7万冊の資料をまとめた専用スペースを設け、暮らしの中で生じる課題から「自分や家族、そして地域を守る」ための知識や情報を提供し、その解決を支援します。</p> <p>専用スペースには、資料と情報の相談に応じる担当の司書を配置し、図書ばかりでなく、医学文献情報や、新聞記事、法令・判例等のデータベースなど膨大な情報の中から必要と思われる情報を探し出し、提供します。</p> <p>図書館の資料・情報だけでは解決が難しい場合には、専門機関や団体等を紹介するなどして、課題の解決を支援します。</p> <p>多くの方が利用する図書館の強みをいかし、専門機関等と連携して、チラシの配布や企画展示の開催等、さまざまな形で情報を発信していきます。</p>	<p>①資料 ○資料の収集・提供 【取組】開架には、図書38,582冊、雑誌3,039冊を配架している。利用の多い資料は参考図書として複本購入した。</p> <p>【評価・課題】依頼せずともチラシ類を収集できるようになってきた。視聴覚資料の利用が伸びておらず、アピールする必要がある。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】データベース講習会の実施は未定。</p> <p>【評価・課題】レファレンスでデータベースを十分に活用できていない。</p> <p>②レファレンス・サービス 【取組】レファレンス件数:961件(全レファレンス件数:17,998件) ブックリスト1種類を新たに作成。作成済みブックリストやパスファインダーを館内やイベント会場で配布した。</p> <p>【評価・課題】ブックリストは少しずつ種類を増やすことができてきている。パスファインダーには時間と手間がかかるため、種類を増やすことが難しい。ブックリストやパスファインダーのいくつかを年度内に改訂する必要がある。</p>	<p>①資料 ○資料の収集・提供 【取組】開架には、図書40,279冊、雑誌2,492冊を配架している。利用の多い資料は参考図書として複本購入。ニーズの多い看護関係資料について、積極的に購入。利用者のニーズのある分野について、新規に購入する雑誌を検討。 【評価・課題】オーテピア高知図書館になり、新たに多くの雑誌を購入したが、利用者に認知されず、あまり利用されていないものがある。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】本年度は、他の担当業務との兼ね合いで準備・開催の時間が取れず、データベース講習会は実施に至らなかった。 12/15開催の「地域医療連携研修会」にて、データベースの紹介を行った。 【評価・課題】講習会を実施できるよう、業務の効率化や担当業務の見直しが必要。</p> <p>②レファレンス・サービス 【取組】レファレンス件数:1,974件(全レファレンス件数:37,914件) ブックリスト1種類を新規作成、2種類を改訂。作成済みのブックリスト及びパスファインダーの改訂案を作成。作成済のブックリストやパスファインダーを館内やイベント会場で配布。また、患者会から会報誌に掲載したいとの要望があり、認知症関係資料のブックリストを提供(昨年度も提供実績あり)。 【評価・課題】少しずつだが、ブックリストの種類は増えている。パスファインダーは作成に時間と手間がかかるため、増やすことが難しい。現在提供しているパスファインダーの様式が分かりにくいいため、様式の修正から検討が必要。</p>	<p>○引き続き、社会情勢の変化や制度の見直し等に留意しながら、利用者のニーズに合った資料の収集に努める。</p> <p>○利用者から需要がある雑誌を継続購入するとともに、あまり利用のなかった雑誌を知ってもらうための展示を令和2年度に行う。</p> <p>○担当業務の見直しを行ったので、令和2年度はデータベース利用促進に繋がるよう、講座内容や実施時期について具体的に作業を進める。</p> <p>○引き続き、ブックリストやパスファインダーの作成と改訂を進めていく。他サービス担当と協議しながら、パスファインダーの様式修正を進めていく。</p>

③他機関と連携したセミナーや相談会等の共催事業の実施

【取組】アウトリーチ担当と協力して、専門機関や行政機関等と、イベント、展示、セミナー、相談会等を9回(うち出前図書館4回)共同実施した。

4/14 平成31年度世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念映画上映会(参加者数 102名)

6/9 高知市いきいき健康チャレンジ2019スタートイベント など

【評価・課題】

参加した事業では、概ね好評を得ており、次年度も継続して連携を希望する機関も多い。

オーテピア館内でのイベントについて共催依頼が増えたが、すべてを受けることは業務量的に難しい。共催を受ける基準を整理する必要がある。

③他機関と連携したセミナーや相談会等の共催事業の実施

【取組】アウトリーチ担当と協力の上、専門機関や行政機関等とイベント、展示、セミナー、相談会等を16回(うち出前図書館13回)共同実施した。

4/14平成31年度世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間記念映画上映会(参加者数 102名)

6/9高知市いきいき健康チャレンジ2019スタートイベント

10/22がん相談会&講演会2019(共催:高知がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会、高知大学医学部附属病院がん相談支援センター、高知県健康政策部健康対策課)

12/6地域医療連携研修会(主催:高知医療センター地域医療連携室) など

【評価・課題】参加した事業では、概ね好評であり、来年度も継続して連携を希望する機関も多い。また、継続することにより、利用者のサービスへの認知度も上がっている。人員体制の変更等により、イベントを継続的に行うことが困難となっている。また、オーテピア館内でのイベント共催依頼も増え、すべてを受けることは業務量的にも難しい。連携先に共催条件の理解を求めていく必要がある。新型コロナウイルスの影響によりイベントの中止が相次いでいる。

○連携機関との役割分担を明確にし、共催するメリットを共有化し、相互に効果的な連携を図る。新型コロナウイルスの影響も出ているが、アウトリーチ担当と協力し、連携先と調整のうえ、サービスを提供する。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(3)情報リテラシー向上支援サービス講座等、利用ガイド、他の取組との連携	<p>県民・市民が、暮らしや仕事の中で生じるさまざまな課題を解決するために、必要とする情報を有効に収集や整理、評価し、活用することは重要なことです。図書館は、県民・市民が図書や雑誌、新聞、データベースやインターネットなどによる情報を収集や整理、評価し、活用する方法を習得することができる場です。</p> <p>このため、利用者が、情報の探し方を知り、また、得た情報を比較検討し、信頼性のあるものをまとめ、応用していく方法を学ぶ、情報リテラシー向上のためのプログラムを、関係機関と連携し、年代や対象に合わせて実施します。</p> <p>図書館利用に障害のある方に対しては、高知声と点字の図書館等と協力して、取り組みます。</p>	<p>①講座等 ○図書館活用講座の実施 【取組】月1回開催している館内ツアー(図書館施設見学)とあわせて「図書館活用ミニ講座」(8月から開始)を実施。今年度8回実施予定。講座内容は、図書館の活用法や、蔵書検索、データベースの利用案内等(30分程度)。開催に際しては、ウェブ・サイトやチラシにより、利用者の参加を促した。</p> <p>【評価・課題】館内ツアー(図書館施設見学)は、利用者から要望が多かった日曜日開催を8月から実施している。</p> <p>○データベース活用講座の実施 【取組】本年度のデータベース講習会の実施は未定の状況。</p> <p>【評価・課題】実施に向けての講座内容の検討を早急に行う。</p> <p>②パスファインダーの作成・提供【再掲】 【取組】館全体ではブックリスト30種類、パスファインダー7種類を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布している。 【評価・課題】テーマを増やすとともに、内容の更新が必要となっていないかなどをチェックし、適宜見直していく必要がある。</p>	<p>①講座等 ○図書館活用講座の実施 【取組】引き続き、月1回開催している館内ツアー(図書館施設案内)とあわせて「図書館活用ミニ講座」(8月から開始。参加者数延べ7回48名)を実施。座学を主な内容としていた講座を、1月からはミニデータベース講座(実習15分程度)と図書館の活用法等(座学15分程度)で実施。 2/20「直売所応援講座(参加者数23名)」(講師:農山漁村文化協会 田中氏)を開催。講座の中でルーラル電子図書館を紹介。 3/22「いざというときに備えて知っておきたい相続と遺言の基礎知識」を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 【評価・課題】館内ツアー(図書館施設見学)は8月から利用者から要望が多かった日曜日開催を実施できている。ミニデータベース講座はアンケート結果で好評である。</p> <p>○データベース活用講座の実施 【取組】以下の2つのデータベース講習会を開催。 日経テレコン活用術 2/27実施 参加者23名 ヨミダス歴史館活用術 2/28実施 参加者20名 【評価・課題】年度を通じて計画的に講座の計画・実施ができたとは言い難く、実施分の広報等も不十分であった。参加者の中に、対象として想定した教職員がいて、データベースの便利さを感じてもらえた点はよかった。</p> <p>②パスファインダーの作成・提供【再掲】 【取組】館全体ではブックリスト57種類、パスファインダー7種類(ビジネス2種類、多文化2種類、健康安心防災3種類)を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布している。 【評価・課題】テーマを増やすとともに、内容の更新が必要となっていないかなどをチェックし、適宜見直していく必要がある。</p>	<p>○講座参加者のアンケート結果を参考に、利用者からよりニーズの高い項目を盛り込めるよう、引き続き内容の充実を図る。中止となった相続と遺言についての講座は、令和2年度の実施に向けて準備する。</p> <p>○データベース利用促進に繋がるよう、令和2年度は早い時期から講座内容や実施時期を検討する。</p> <p>○問い合わせの多いものから優先的にパスファインダーの作成を進める。</p>

③職場体験等での実施

【取組】職場体験時には、課題について館内のデータベースや蔵書検索システムを使って調べるという具体的な方法で行った。

【評価・課題】今後も図書館見学や図書館活用講座においても、よりわかりやすい方法で理解を広めていく必要がある。

③職場体験等での実施

【取組】・図書館見学の際に、図書の分類の仕組みや本の探し方等のレクチャーを行った。(図書館見学87団体、延べ4,269人。)

・教員向けの見学ガイドを作成。

・こども司書受入れ3件

8月に2日間、「とさつ子タウン(こどもが運営するまち)」に「とさつ子図書館」として参加。司書の仕事体験(2日間参加者計21名)や様々な種類の本を集め、展示・紹介。

【評価・課題】図書館見学の3年生向けの基本的なレクチャーのパターンを、他学年にも応用することができた。

○見学の際に行うレクチャーの台本をリニューアルし、さらに効果的に見えるよう改善する。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) 10 ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(4)行政支援サービス資料、利用ガイド、レファレンス、連携、アウトリーチ	高知県庁と高知市役所が行政運営や政策立案を行う際に必要となる資料や情報の提供等を、積極的に支援します。あわせて、専門的かつ幅広い知識・情報が得られ、「役立つ」ことを知ってもらえるように、広くPRも行います。また、図書館は不特定多数の利用者が定期的に訪れる施設であるという特長をいかして、パンフレットなどの配布や、庁内各機関等と連携した講座・イベントの開催等も行います。	<p>①資料の収集・提供</p> <p>○資料の収集 【取組】県内自治体職員が集まる機会などを利用し直接協力依頼をしている。チラシ・パンフレット等の配布物については、行政向けメールマガジン(Vol.7)などのPRにより収集が進んだ。 【評価・課題】うへの取組が功を奏している。館内でのチラシ・パンフレットの配布では、来館者から好評を得ている。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】契約データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の「全国の地域面」を新たにオプション契約した。今年度以降のデータベース講習会開催については検討中。 【評価・課題】ビジネス系データベースを中心に行政職員の業務使用が増えている。</p> <p>②パスファインダーの作成・提供 【取組】館全体ではブックリスト30種類、パスファインダー7種類(ビジネス2種類、多文化2種類、健康安心3種類)を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布している。 新たな取組として、県労働委員会事務局職員と協力してブックリストを作成し、双方のホームページで公開したほか、労働委員会事務局窓口でも配布を開始した。 【評価・課題】上述の労働委員会事務局との取組では、連携を密にして、現場ニーズに十分対応したブックリストを作成できた。他の機関からも要望がある。</p>	<p>①資料の収集・提供</p> <p>○資料の収集 【取組】県内自治体職員が集まる機会などを利用し直接協力を依頼。チラシ・パンフレット等の配布物については、行政向けメールマガジン(Vol.13)などで再度PRしたことにより収集が進んだ。 【評価・課題】うへの取組が功を奏しており、館内でのチラシ・パンフレットの配布は、来館者から好評を得ている。メールマガジンでは新庁舎に移転する市役所各課に向けてもタイミングよく寄贈依頼ができた。</p> <p>○データベースの導入・提供 【取組】博物館職員が図書館休館日にデータベースを業務使用している。県地産地消外商課職員向けにデータベースガイドを実施した(3/18 参加4名)。 【評価・課題】ビジネス系データベースを中心に行政職員の業務使用が増えており、さらなる活用を周知していく。</p> <p>②パスファインダーの作成・提供 【取組】館全体ではブックリスト54種類、パスファインダー7種類(ビジネス2種類、多文化2種類、健康安心防災3種類)を作成しており、ウェブ・サイトで公開しているほか、館内やイベント会場で配布。 パスファインダーは内容を見直し情報を更新。</p> <p>【評価・課題】県労働委員会事務局と協働し、労働相談の解決につながるブックリストを作成・活用したことにより、同事務局が知事賞を受賞するといった成果があった。他の機関からも要望がある。</p>	<p>○引き続き、多様な機会をとらえて関係機関へ周知し、資料の寄贈依頼を行う。配布資料は在庫が少なくなった時点で、速やかに再送付を依頼する。</p> <p>○令和2年度に導入される新データベース2種(「日本農業新聞データベースサービス」「日本マーケットシェア事典オンライン」)の活用を連携機関へPRする。</p> <p>○引き続き、ニーズに沿ったパスファインダー、ブックリストの作成・公開を進める。適宜、情報を更新し充実を図る。</p>

③庁内関係機関等と連携した取り組みの実施

【取組】庁内関係機関と出前図書館、イベント時の関連図書コーナー設置、展示等を行った。

「リサイクル製品認定制度の展示(県環境対策課)」

「第43回紙とあそぼう作品展(県工業振興課)」

「図書館発！高知家のがん征圧月間2019「治療と仕事、病気と子ども」(県健康対策課)

「知ってますか？がん検診(同上)」

「高知市いきいき健康チャレンジスタート！禁煙週間(市健康増進課)」など

その他、市・人権同和・男女共同参画課など行政機関と連携した展示を引き続き実施予定。

【評価・課題】連携展示については順調に実施できている。出前図書館については依頼が増える一方、都合がつかず謝絶することがある。

③庁内関係機関等と連携した取り組みの実施

【取組】県市の庁内関係機関と連携し、出前図書館、イベント時の関連図書コーナー設置、展示等を行った。

「ブラックバイトに気をつけて！(県労働委員会)」

併せて労働委員会事務局ミニコーナーを労働関係資料棚に設置

「連携展示(市人権同和・男女共同参画課)」

「南海トラフ地震に備えよう！(県南海トラフ対策課)」

【評価・課題】連携展示については順調に実施できている。出前図書館については依頼が増える一方、都合がつかず謝絶することがある。

○出前図書館については、PR効果の高い機会の精査、新規団体を優先する等により、連携をより広げていく。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) 12 それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
3 利用者に対応した図書館サービスの充実					
	(1)児童サービス資料、展示、利用ガイド、レファレンス、行事、普及活動、児童書の選定支援、連携、情報リテラシー、アウトリーチ	<p>児童サービスは、小学生以下の子どもを対象とするサービスです。</p> <p>乳幼児期や学童期に、絵本や物語に親しむ時間を持ち、読書を通じて得られるさまざまな経験を重ねていくことは、子どもたちの豊かな人格形成のための大きな力となります。</p> <p>子どもたちが自分自身で図書や紙芝居を手にとってゆっくり楽しめる環境と、感性と知性、社会性を育むことができるような図書や雑誌、紙芝居、新聞等を提供します。また、おはなしコーナーや親子コーナーなどにおいて、「読み聞かせ」や「おはなし会」等も開催します。</p> <p>絵本の読み聞かせや図書の紹介等は、子どもたちの関心を読書に向ける大きなきっかけになります。そのことが理解され、継続的な取組となるよう、保護者や保育者、教職員等に積極的に働きかけていきます。あわせて、子どもの読書活動を支える人々のための研修会も実施します。</p> <p>また、子どもやその保護者が利用しやすいように、授乳室や子ども専用トイレなどを設置します。</p>	<p>①資料の収集</p> <p>○基本図書の充実 【取組】所蔵冊数：57,949冊</p> <p>【評価・課題】計画的に購入できている。長く読み継がれるべき基本図書を、利用者の目の付きやすい場所に置くことができている。</p> <p>②子どもと本を結びつける行事の実施 【取組】 [おはなし会(主催)] 延べ51回 参加数：延べ812人 [国際交流員協力による外国語のおはなし会] 延べ4回 参加人数：延べ187人(子ども)</p> <p>【評価・課題】定期的開催できている。参加者からは好評。リピーターも新規の方もどちらも多い。おはなし会のために読み聞かせの本を選書をしたり、わらべ歌やストーリーテリングの練習をしたり、共催のおはなし会を見学することで、職員の研鑽の場にもなっている。ストーリーテリングがあまりできていない。</p>	<p>①資料の収集</p> <p>○基本図書の充実 【取組】所蔵冊数：188,280冊 新刊のしかけ絵本や特大絵本を積極的に購入した。おはなしのへやの周りにある「読み継がれた絵本」の展示に、新規購入した基本図書を追加した。 【評価・課題】計画的に購入できている。長く読み継がれている基本図書を、利用者の目の付きやすい場所に置いている。 これまで県と市が別々に選書していたが、より多い人数で意見を出し合えるよう、県市合同で選書ができる仕組みを構築した。</p> <p>②子どもと本を結びつける行事の実施 【取組】 [おはなし会(主催)] 延べ102回 参加数：延べ1,566人 [おはなし会(共催)] 延べ19回 参加数：延べ842人 [国際交流員協力による外国語のおはなし会] 延べ11回 参加人数：延べ389人(子ども) 【評価・課題】定期的開催できている。参加者からは好評。リピーターも新規の方もどちらも多い。おはなし会のために読み聞かせの本を選書をしたり、わらべ歌やストーリーテリングの練習をしたり、共催のおはなし会を見学することで、職員の研鑽の場にもなっている。ストーリーテリングがあまりできていない。</p>	<p>○基本図書は貸出回数が多く傷みやすいため、必要に応じて点検や買い替えを行う必要がある。</p> <p>県と市の合同での選書は始まったばかりなので、試行しながらよりよい方法を模索していく。</p> <p>○お話し会にストーリーテリングを取り入れるため、ストーリーテリングを行う月をあらかじめ設定するとともに職員の勉強会を開催する。</p>

③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及

【取組】

[楽しみながら学ぶおはなしの連続講座(共催)]

延べ7回

[読書会] 延べ4回 参加者数:延べ30人

[ストーリーテリング勉強会]

延べ4回 参加者数:延べ34人

【評価・課題】読書会や勉強会、連続講座には職員もそれぞれ参加しており、職員の研鑽の場にもなっている。参加者が固定されていることが課題。

④児童書の選定支援

【取組】コーナー利用実績:利用件数延べ15件34人

引き続き毎月新刊見本図書を購入している。

高知県学校図書館協議会と連絡を取り合い、選定支援コーナーのPRを行った。

昨年度購入(4月～9月)した選定支援用の資料を10月から県内3か所の市町村立図書館で巡回展示するため準備を開始した。

高知市認可保育園、高知県内幼稚園の園長会等で、選定支援コーナーのPRを行った。

【評価・課題】選定支援コーナーの利用を促進する必要がある。

③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及

【取組】

[楽しみながら学ぶおはなしの連続講座(共催)]

延べ7回 参加人数:延べ216人

[読書会] 延べ10回 参加者数:延べ81人

[ストーリーテリング勉強会]

延べ10回 参加者数:延べ82人

学生ボランティア主催の読み聞かせの練習に立ち会い、アドバイスを行った。

【評価・課題】定期的開催できている。

読書会や勉強会、連続講座には職員もそれぞれ参加しており、職員の研鑽の場にもなっている。

参加者が固定されていることが課題。

④児童書の選定支援

【取組】・コーナー利用実績:利用件数延べ29件88人

・高知県学校図書館協議会と連携し、選定支援コーナーをPR。

・高知市認可保育園、高知県内幼稚園の園長会、各教育事務所、保育士研修会で、選定支援コーナーをPR。

・10月から市町村立図書館(県内3か所)で、購入して1年経過した本の巡回展示を開始。(担当:支援協力)

・館内での展示、県内巡回展示後の見本図書の活用方法について検討した。

【評価・課題】選定支援コーナーのさらなる利用促進の取組が必要。

○図書館見学時にPR、図書館新聞やウェブ・サイト、フェイスブックでの記事の出し方を工夫するなどして新規の参加者を増やす。

○選定支援コーナーの使用促進につなげるため、利用対象者が貸室利用する場合(アウトリーチ担当と協力)や利用カードを作成に来たときにPRを行う。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	14 令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(2)ティーンズ・サービス 資料、展示、利用ガイド、普及活動、連携、情報リテラシー、PR	10代の若い人たちにとって、読みやすい本、読みたくなる本、学校での学習内容を深められるような本、進路選択に役立つ本等を集めて、利用しやすいようにティーンズ・コーナーを設置し、提供します。 また、中学生・高校生だけでなく、働いている10代の若者が、読書を通じて継続して学習ができるような本や、不登校等で悩む人にとって力となるような本も提供します。 ティーンズ・コーナーに隣接した防音仕様のグループ室では、グループでのディスカッションなどができます。 読書を習慣化させ、生涯にわたって学習や仕事で役立てることができるようなイベントやPR活動等もあわせて実施します。	①資料 ○ティーンズ・コーナーの設置・提供 【取組】所蔵冊数:約8千冊 ティーンズの興味・関心に応える本、学習内容を深めることのできる本等を収集し提供した。 【評価・課題】 計画的に購入できているが、業務が多忙なため、選書時間が十分に取れないことがある。 学生の来館者数は増加傾向にあるが、来館した学生をどう読書へつなぐかが課題である。 ○学校案内の収集・提供 【取組】各学校へ依頼文を出し、収集を行っている。 【評価・課題】 今年度から新たに収集を開始した県内大学等については、7校のうち半数が届いており、ティーンズコーナーにて提供している。 ②ブックリストの作成・提供 【取組】情報リテラシーに関するブックリストを作成し、ティーンズコーナーで配布、ウェブ・サイト上で提供した。 【評価・課題】ブックリストに掲載した本を、夏休み期間中ティーンズコーナーに展示したところ、よく貸出しされた。	①資料 ○ティーンズ・コーナーの設置・提供 【取組】所蔵冊数:9,790冊 ティーンズの考えを知るため、来館した中高生にアンケートを実施し、項目内の「最近気になること、興味のあること」を選書の参考とした。 【評価・課題】ティーンズコーナー(文庫)に古いものが多く、より今のティーンズのニーズにあった資料の提供が必要。 ○学校案内の収集・提供 【取組】各学校へ依頼文を出し、収集を行っている。 【評価・課題】今年度から新たに収集を開始した県内大学等については、7校のうち6校から資料が届いており、ティーンズコーナーにて提供している。 ②ブックリストの作成・提供 【取組】展示と連動させ、情報リテラシー、および学習方法に関するブックリストを作成し、ティーンズコーナーで配布、ウェブ・サイト上で提供。 【評価・課題】ブックリストに掲載された本を夏休み期間中の展示にも使用し、相乗効果が得られた。	○ニーズに合わない文庫の書庫入れを急ぐ。文庫の購入を引き続き行うとともに、一般文庫からティーンズコーナーへ移動する資料を選定する。 ○高知資料担当と連携して引き続き収集提供を行う。 提出のない学校には、電話にて確認する。 ○今後も展示と連動させてブックリストを作成・提供していく。

③イベントの開催

【取組】主催イベント「高校生ビブリオバトル」今年度の開催に向けて準備中。

なお、今年は新たに手話通訳士を手配する。
より多くのティーンズへ情報発信するため、広報手段も多様化させる。

【評価・課題】順調に準備作業が進んでいる。

④PR誌の発行

【取組】定期的にティーンズ通信を発行し、提供している。

紙面に掲載するイラストを募集しており、現在までに15件の投稿があった。

今年度は、職場体験学習生が作成したポップの掲載も行った。

【評価・課題】PR誌の発行はできており、作品投稿も増えつつあるが、ティーンズ世代の記事の作成・編集には至っていない。

③イベントの開催

【取組】ビブリオバトルを11月24日(日)に開催。(参加:バトラー14名、観戦者55名)今年は新たに手話通訳士を手配した。また、より多くのティーンズへ情報発信するため、広報手段も多様化させた。(高知市広報「あかるいまち」掲載、デジタルサイネージでの告知、2階総合カウンター等でのチラシ配布説明)

・12月1日(日)出前図書展示を行った。「高知家の早寝早起き朝ごはんフォーラム2019」の分科会にて、食育関係のブックリストを配布し図書を展示した。(72冊)

【評価・課題】ビブリオバトルについては、窓口業務の職員も多く、打合せや連絡調整、円滑な進捗管理に課題がある。

④PR誌の発行

【取組】定期的にティーンズ通信を発行し、提供している。

紙面に掲載するイラストを募集しており、現在までに20件の投稿があった。今年度は、職場体験学習生が作成したポップや、図書館実習生による本の紹介文も掲載した。

【評価・課題】PR誌の発行はできており、作品投稿も増えつつあるが、ティーンズ世代の記事の作成・編集には至っていない。

○窓口業務の交代等で、事前の打ち合わせ時間を確保できるよう調整を依頼。

○今後もティーンズ通信を継続して発行し、県内のティーンズへ記事の投稿を呼びかける。十代の利用者を部員とした「ティーンズ部(仮称)」を令和2年度前半に設立予定。館の担当職員と協働して、読書推進活動を行ってもらう。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(3)多文化サービス資料、展示、利用ガイド、普及活動、連携、職員研修等	<p>県内には、日本語以外の言語を使用する人や、日本語で会話はできても文字を読むことが難しいといった人も生活しています。このため、図書館では、日本語を学習するための資料だけでなく、言語による情報の格差に配慮して、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を提供していく必要があります。</p> <p>図書館の3階には、外国語で書かれた図書や雑誌、語学に関する図書等をまとめたコーナーを設置するとともに、異文化を知るきっかけとなり、本県に住む外国人の生活に役立つ展示を行います。</p> <p>また、地域で生活する外国の方との交流や相互理解につながるよう、外国語絵本の読み聞かせや、おはなし会、外国の文化に関する講演会等も実施します。</p>	<p>①外国語で書かれた各種資料の収集提供 【取組】外国語のおはなし会に関する言語の絵本の収集や所蔵の少ない言語資料の選書、リクエストへの対応を行った。また、新たに雑誌、新聞延べ6タイトルを追加し、収集した。引き続き新しい新聞・雑誌の購入を検討していく。 利用案内の提供にあたっては、高知市中央窓口センター外国人登録窓口等に新たに配置した。</p> <p>【評価・課題】各言語の参考書が古くなっているものがある。また、県内在留外国人の母語資料について十分でないものがある。</p> <p>②各種催しなどの開催 【取組】国際交流員と共同で行う「HELLO WORLD～外国語のおはなし会」(毎月開催、4～8月延べ202名参加)や、NPO法人と共催で行う「English Nook～親子でたのしむ英語じかん～」(新規事業。今年度5回実施予定、7月は57名参加)の開催など外国の文化にふれる機会を提供した。また関係団体が主催する館内イベントにおいて、多文化サービスの紹介や出前図書館の実施、多文化ブックリストの配布を行った。 [6/22 アフリカの今を知る(主催:JICA四国)] 参加人数:約130人 [8/13 JICA&高知県南米日系研修員との1dayセミナー(主催:高知県青年国際交流機構、高知希望工程基金会)] 参加人数:54人</p> <p>【評価・課題】今年度からHELLO WORLDに高知市に加え、高知県の国際交流員も参加している。 行事を通じて関係団体とも積極的に連携し、情報収集するとともに、各行事などにより国際交流の機会の提供ができた。</p>	<p>①外国語で書かれた各種資料の収集提供 【取組】外国語のおはなし会に関する言語の絵本の収集や所蔵の少ない言語資料の選書、リクエストへの対応を行った。また、問い合わせ等ニーズのある雑誌を選書、収集した。引き続き新しい新聞・雑誌の購入を検討していく。 日本語学習者向けの資料を収集。 電子図書館で利用できる外国語の電子書籍を507タイトルを購入。 ベトナム語資料の書誌データ入力項目を調整、整理、書誌データを作成。</p> <p>【評価・課題】各言語の参考書が古くなっているものがある。また、県内在留外国人の母語資料について十分でないものがある。利用者用OPAC所蔵レントへの言語区分表示について調整する必要がある。</p> <p>②各種催しなどの開催 【取組】国際交流員と共同で行う「HELLO WORLD～外国語のおはなし会」(毎月開催、4～2月延べ389名参加)や、NPO法人と共催で行う「English Nook～親子でたのしむ英語じかん～」(新規事業。今年度5回実施予定、4回の実施で205名参加)の開催など外国の文化にふれる機会を提供した。また関係団体が主催する館内イベントにおいて、多文化サービスの紹介や出前図書館の実施、多文化ブックリストの配布を行った。 [6/22 アフリカの今を知る(主催:JICA四国)] 参加人数:約130人 [8/13 JICA&高知県南米日系研修員との1dayセミナー(主催:高知県青年国際交流機構、高知希望工程基金会)] 参加人数:54人 [9/21 JICA海外協力隊募集説明会(主催:JICA四国)] 参加人数:10人 [11/10 第2回青少年グローバルリーダー育成フォーラムinオーテピア(主催:高知県IYEO、JICA四国)] 参加人数:92人</p> <p>【評価・課題】今年度からHELLO WORLDに高知市に加え、高知県の国際交流員も参加。 行事を通じて関係団体とも積極的に連携し、情報収集するとともに、各行事などにより国際交流の機会の提供ができた。</p>	<p>○各国語の参考書について買い替え等を順次行い、新鮮な資料の提供に努める。現在所蔵のない言語の雑誌、新聞を購入する。</p> <p>○レントへの言語区分表示については対応済み。多文化サービスの周知のため、大学等を通じて留学生などに配布するなど、国際交流関係機関に利用案内を提供する。</p> <p>○各行事の開催を通じて図書館において異文化を知り、国際交流のきっかけとなる機会の提供を引き続き行う。</p>

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(4)図書館 利用に障害 のある人へ のサービス 資料、各 サービス、ボ ランティア、 PR、アン ケート、職員 研修	図書館では、視覚・聴覚障害など文字情報の利用が困難な人や、高齢、病気、その他の理由等により来館が困難な方を図書館利用に障害のある人と考え、これらの人々に配慮したサービスを提供するとともに、サービスを活用していただくためのPRを積極的に行います。障害のある人と図書や情報を積極的につなぐため、多様な資料やサービス手段、コミュニケーション手段、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整え、「だれにでも」「やさしく」利用できる図書館を目指します。併設する「高知声と点字の図書館」では、点訳や音訳の資料等、著作権法により利用者が制限される資料を、一方、「オーテピア高知図書館」では、市販の資料を収集することで、重複することなく効率的に資料を収集します。また、両館どちらの窓口でも、双方の資料の貸出し手続きが行えるなど、一体的な運用を行います。	<p>①資料 ○バリアフリー資料の収集・提供 【取組】大活字本、LLブックは全点を購入している。</p> <p>【評価・課題】LLブックについては、認知度が低いため、PRの強化が必要。</p> <p>②各サービス ○来館が困難な方への宅配貸出サービスの実施 【取組】引き続き、サービスを提供した。 新規申込：2名 利用件数：28件 利用冊数：138冊 利用者の高齢化など健康上の利用で3名が休止。 【評価・課題】新規利用者もあるが、まだ認知度が低い。</p> <p>○対面音訳サービスの実施 【取組】高知声と点字の図書館と連携して実施している。 実施回数：517回(うち登録ボランティア利用487件)。 9月に対面音訳ボランティア養成講座を実施予定。 【評価・課題】レファレンスや相互貸借も対応している。利用者が固定している。</p> <p>○イベントの開催 【取組】・手話で楽しむおはなし会(R元.9.29) ・バリアフリー映画(字幕、副音声)の上映会の開催(R元.9.29)</p> <p>【評価・課題】手話通訳の人材が必要。聴覚障害者協会に相談するなど、連携・協力関係ができた。</p>	<p>①資料 ○バリアフリー資料の収集・提供 【取組】大活字本、LLブックは全点を購入。 出前図書館(3件:ふくし総合フェア・じんけんふれあいフェスタ・キッズ☆バリアフリーフェスティバル)でPRを行った。 大活字本のブックリストを更新し、館内配布及びウェブ・サイトに公開。 【評価・課題】LLブックについては、まだ認知度が低いため、PRを強化する必要がある。</p> <p>②各サービス ○来館が困難な方への宅配貸出サービスの実施 【取組】 新規申込：3名 利用件数：53件 利用冊数：241冊</p> <p>【評価・課題】個別に細かいコミュニケーションをとっている。 新規利用者もあるが、まだ認知度が低い。</p> <p>○対面音訳サービスの実施 【取組】実施回数：1,164回(うち登録ボランティア利用1,101件)。 9月に対面音訳ボランティア養成講座を実施。 11月にボランティアスキルアップ研修会を実施。 【評価・課題】レファレンスや相互貸借も対応しているが、利用者が固定している。</p> <p>○イベント等の開催 ・手話で楽しむおはなし会(R元.9.29開催。R2.3.29はコロナの影響で中止)。 ・バリアフリー映画(字幕、副音声)の上映会の開催(R元.9.29) ・高知みらい科学館主催のサイエンスフェスタへのブース出展(R2.2.9黒潮町、R2.3.1田野町)ともにコロナの影響で中止) 【評価・課題】聴覚障害者協会に相談するなど、連携・協力関係ができた。</p>	<p>○各種バリアフリー資料のブックリストを作成・更新し、ウェブ・サイトでの公開やイベントでの配布などにより利用を促進する。</p> <p>○障害者用の機器展ほかイベント等の機会を利用し、サービスの周知に努める。</p> <p>○対面音訳サービスのチラシを作成し、サービスの周知に努める。</p> <p>○障害のある方向けのサービスとして、開館以来毎年度実施している手話で楽しむおはなし会、バリアフリー映画の上映会を継続的に実施し、障害者団体とも連携・協力を深める。</p>

○団体貸出(さくらバリアフリー文庫※)の実施

【取組】昨年度と同様に、県内市町村立図書館に貸出した(香美市、佐川町、越知町、日高村)。また、高知声と点字の図書館と連携し、施設等への団体貸出をした。新規登録団体:4件。定期的に貸出しを継続している。

【評価・課題】高知声と点字の図書館と連携を始めたことにより、新たな貸出先の登録があり、定期的な貸出しに繋がっている。

※さくらバリアフリー文庫……大活字本、LLブック、録音図書などをセットにしたもの。読書が困難な方でも読書を楽しめる様々な資料があることを知ってもらうことを目的に、市町村図書館コーナーで展示してもらう。

③ボランティア

○ボランティアなどの養成、スキルアップ講習会等を実施

【取組】対面音訳ボランティア養成講座(全4回)を高知声と点字の図書館と連携して9月以降に実施予定。

① 講座 9/7(土) 9:45~12:00

② 講座 9/15(日)10:00~16:00

③ 実践研修

④ 対面見学

【評価・課題】対面音訳に必要なスキル不足や活動時間の制約から依頼に繋がらないボランティアがいる。今後は質の高いボランティアが養成できるよう整理が必要。

○団体貸出(さくらバリアフリー文庫)の実施

【取組】高知声と点字の図書館と連携し、さくらバリアフリー文庫をバリアフリー資料の普及・啓発のために、県内市町村立図書館や障害者施設に団体貸出をした。

実績:12団体に貸出し。

【評価・課題】市町村立図書館との連携が進んだ。さらに多くの館に貸出しをしていく必要がある。

③ボランティア

○ボランティアの養成、スキルアップ講習会等の開催

【取組】対面音訳ボランティア養成講座(全4回)を高知声と点字の図書館と連携して実施。

① 講座 9/7(土)9:45~12:00

② 講座 9/15(日)10:00~16:00

③ 実践研修

④ 対面見学

ボランティアスキルアップ研修会を高知声と点字の図書館と連携して実施(R元.11.16)。

【評価・課題】対面音訳に必要なスキル不足や活動時間の制約から依頼に繋がらないボランティアがいる。

○市町村支援協力担当や声と点字の図書館と協力のうへ、市町村や団体への声かけやイベント等の機会を利用し、団体貸出サービスの周知に努める。

○質の高いボランティアが養成できるよう養成講座については条件の整理を行った。スキルアップ研修については対面音訳利用者のニーズを聞き取り調査のうへ、それに対応した内容の研修を令和2年度に行う。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を意識して記入)
4 連携・支援及び図書館の活用					
	(1)市町村立図書館等への支援(県立図書館機能) 人的支援、物的支援、アウトリーチ、PR	県民がそれぞれの地域で、読書し、役立つ情報が得られる環境を整えます。東部・中央・西部の各ブロックの担当職員を配置し、各市町村立図書館等の状況に応じた支援を行うほか、物流サービスの充実や、移動図書館の運行等により、市町村立図書館等と連携・協力して、県内全域の読書環境と情報環境の充実に努めます。あわせて、住む場所に関わらず、県民が等しく、必要な図書館サービスが受けられるよう、遠方からでも市町村立図書館等を通して県立図書館の本を利用できることや、一般的には購入が難しい専門図書やデータベースが利用できることなど、サービスについて周知を図ります。	<p>①人的支援</p> <p>○巡回訪問や依頼訪問等による支援 【取組】巡回訪問:32市町村延べ69回実施 依頼訪問:2市町村延べ2回実施 職員の図書館巡回のほか、館長や生涯学習課を同行して教育委員会への訪問を行い、各市町村の状況確認やサービス説明を行った。</p> <p>【評価・課題】年度の早い段階で担当者と顔合わせができたことで、その後の相談につながりやすくなっている。</p> <p>○研修の実施 【取組】ブロック別研修会(3会場58名参加)の開催、県立図書館の職員を派遣する「どこでも研修」(2市町各1回10名参加)の実施、オーテピア高知図書館職員研修(図書館サービス研修「基礎・総合編」)への市町村職員の受入れ(25名参加)。 【評価・課題】研修講師となる職員の育成が必要。研修の企画、調整が計画的に実施できていない。</p> <p>②物的支援</p> <p>○市町村のニーズに応える資料の収集・提供 【取組】購入冊数 3,182冊 移動図書館用 2,589冊 協力貸出用 593冊 選定支援用に全点購入している児童書を市町村でも活用できるよう、県内3ブロックで巡回展示を企画した。</p> <p>【評価・課題】巡回展示のPR及び利用状況の把握</p>	<p>①人的支援</p> <p>○巡回訪問や依頼訪問等による支援 【取組】巡回訪問:33市町村延べ94回実施 依頼訪問:5市町村延べ17回実施 職員の図書館巡回のほか、館長や生涯学習課を同行して教育委員会への訪問を行い、各市町村の状況確認やサービス説明を行った。新館準備中の図書館への業務支援を集中的に行った。</p> <p>【評価・課題】年度の早い段階で担当者と顔合わせができたことで、その後の相談につながりやすくなっている。下半期は訪問日時が合わず巡回訪問回数が減少した。</p> <p>○研修の実施 【取組】ブロック別研修会(4会場67名参加)の開催、県立図書館の職員を派遣する「どこでも研修」(5市町各1回49名参加)の実施、オーテピア高知図書館職員研修(図書館サービス研修「基礎・総合編」)への市町村職員の受入れ(25名参加)、児童図書選定講座(3会場37名)の実施。 【評価・課題】研修を行う職員の育成が必要。研修実施時期が下半期に偏り、職員・受講者双方の負担感が増した。</p> <p>②物的支援</p> <p>○市町村のニーズに応える資料の収集・提供 【取組】購入冊数 7,531冊(R2.3.31時点) 新規貸出セット 43セット(1,107冊) 県立図書館でH30年度に購入した選定支援用図書の巡回展示(選定に活用)を、遠隔地域の3市町で開始した(R3.1月まで)。 【評価・課題】選定支援用図書の巡回展示について今後どう進めていくかの検討が必要</p>	<p>○新館整備等支援を必要とする市町村に対する重点的な業務支援や情報収集を実施する。情報収集という点でも、新年度早々に、全市町村への訪問を実施する。</p> <p>○県外研修等を積極的に受講し、スキルアップに努める。</p> <p>○中堅司書が研修講師を行う機会を増やす。</p> <p>○研修体系を整理する一方、年間研修計画を早めに作成し、講師との調整や広報の時間を確保する。</p> <p>○巡回展示の利用状況の検証と今後の在り方及び巡回終了後の活用方法の検討。</p>

○物流便による資料の発送

【取組】物流サービスポイントを市町村・大学で計2か所増やし、利便性の向上を図った。

物流取扱い冊数:49,889冊

【評価・課題】配送費の確保。市町村立図書館の負担増(作業量、配送用物品等)。遠隔地返却利用者を、市町村立図書館の利用につなげる必要がある。

③PR

○広報誌への掲載等

【取組】巡回訪問や研修会等の機会に、サービスチラシの活用や住民への広報の働きかけを行った。

【評価・課題】定期的に広報を行うなど、継続的な広報が必要である。

○物流便による資料の配送

【取組】物流サービスポイントを市町村・大学で計2か所増やし、利便性の向上を図った。

物流取扱い冊数:121,044冊

遠隔地返却の多い図書館に対し、配送用品の提供を行った。

【評価・課題】配送費の確保。遠隔地返却利用者を、市町村立図書館の利用につなげる必要がある。

③PR

○広報誌への掲載等

【取組】市町村立図書館を通して受けられる当館のサービスについて、巡回訪問や研修会等の機会に、サービスチラシの活用等による住民への広報への働きかけを行った。

【評価・課題】定期的に広報を行う必要がある。

○遠隔地返却利用者に対し、地域の図書館からもオーテピア高知図書館の本が借りられることや、地域の図書館の利用促進についてもPRを行う。

○市町村が発行する広報紙等への掲載状況も確認しつつ継続して広報を行う。

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を意識して記入)
	(2)高知市全域サービスの拠点(市民図書館機能)利用ガイド、レファレンス、連携、PR、職員研修	市民図書館は、「すべての市民のための図書館」、「市民の生活の中に読書を、図書館を」を方針に、地域に密着した図書館でありつづけていと考えています。高知市内には、オーテピア高知図書館のほか、6つの分館、15の分室があり、2台の移動図書館の運行も合わせて、高知市内全域で図書館サービスを展開しています。県立図書館、市民図書館の図書館資料は、物流便で、ご希望の分館・分室まで届けることができます。また、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中・義務教育・特別支援学校との連携を積極的に行います。	<p>①ブックリストやパスファインダーの作成【再掲】 ○ブックリストやパスファインダーの作成 【取組】本館で作成したブックリスト30種類、パスファインダー7種類をウェブ・サイトで公開している。 【評価・課題】分館・分室への周知徹底が不十分である。</p> <p>②学校・学校図書館等との連携 【取組】分館による地域の小・中学校での読み聞かせや、ブックトークなど読書支援活動が継続実施されている。団体貸出セットの一部の内容更新を行った。 【評価・課題】団体貸出セットは、利用状況の偏りがある。全く動きのないセットは見直しが必要。</p> <p>③PR ○分館・分室の周知 【取組】オーテピア館内での分館・分室情報の掲示・チラシ配布。ウェブ・サイトで分館・分室イベント情報掲載。新規登録者に対し、分館・分室の利用案内を徹底。地域団体の図書館見学時にも利用案内している。 【評価・課題】分館・分室発行の広報リーフレット等の集約に努め、さらなる情報発信の促進につなげる。</p> <p>○移動図書館の周知 【取組】ウェブ・サイトや利用案内での紹介 【評価・課題】移動図書館の利用促進にあたっては、車両の老朽化が課題</p>	<p>①ブックリストやパスファインダーの作成【再掲】 ○ブックリストやパスファインダーの作成 【取組】館で作成したブックリスト57種類、パスファインダー7種類(ビジネス2種類、多文化2種類、健康安心3種類)を、ウェブ・サイトで公開中。 【評価・課題】ブックリストやパスファインダーについての分館・分室への周知徹底が不十分。</p> <p>②学校・学校図書館等との連携 【取組】団体貸出セットの一部の内容更新を行った。 【評価・課題】団体貸出セットについては、セットにより利用状況の偏りがあり、全く動きのないセットについては見直しが必要。</p> <p>③PR ○分館・分室の周知 【取組】オーテピア館内での分館・分室情報の掲示・チラシ配布。オーテピア高知図書ウェブ・サイトでの分館・分室イベント情報の掲載。オーテピアでの新規登録者に対し分館・分室も利用できることの説明の徹底。地域団体がオーテピア高知図書館見学に来館した際にも、共通利用カードが分館・分室でも使えることを説明をしている。 【評価・課題】オーテピアで配布する分館・分室が発行する広報リーフレット等の集約に努める。ウェブ・サイト等での情報発信も行う。</p> <p>○移動図書館の周知 【取組】ウェブ・サイトや利用案内での紹介 【評価・課題】移動図書館車両が老朽化しており更新が必要</p>	<p>○毎月一度開催している業務協議研修会の際に、ブックリストやパスファインダーを分館・分室職員に配布・説明し、活用の促進を図る。</p> <p>○学習指導要領の改訂、教科書の改訂に合わせ、教科書の単元学習に役立つ資料の選定、資料セットの充実に取り組む。ニーズにあった効果的な資料提供ができるように、学校現場や学校教育課との意見交換に努める。</p> <p>○引き続きウェブ・サイトに加え、オーテピアのフェイスブックも活用し、周知に努める。</p> <p>○新車両は、令和3年2月に納車される予定</p>

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) 22 ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』(Action) (課題があれば対策を意識して記入)
	(3)県立学校図書館等との連携・協力(県立図書館機能)協力、アウトリーチ、PR	<p>子どもたちが、読書の習慣や資料を活用して学ぶ力を身につけるためには、早い段階から図書館等を活用することが有効であり、学校図書館の役割は重要です。</p> <p>オーテピア高知図書館では、市民図書館と県立図書館とが役割分担し、高知市立学校へのサービスは市民図書館が、県立学校等へのサービスは県立図書館が、学校図書館と連携しながら行います。</p> <p>県立図書館は、県立学校等に対して、要望のあったテーマに応じた資料のまとめ貸しやレファレンスなどの協力を行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の要望に応じて、運営やサービスの充実に向けた支援、必要な情報の提供等も行います。</p> <p>なお、高知市以外の市町村立学校は、各市町村立図書館等を通して県立図書館が支援します。</p>	<p>①学校図書館の要望に応じた資料のまとめ貸し 【取組】 学校訪問により、ニーズの聞き取りを行った。 貸出セットの貸出 貸出実績:14校(私立含む) 331冊</p> <p>【評価・課題】 各校で学校図書館に求められる役割が大きく異なっており、提供する資料の内容や提供方法について十分な検討が必要であることが確認できた。 現在、物流サービスの対象ではない高知市内校、私立校への対応を検討する必要がある。 訪問を実施した学校から、貸出依頼等の反応があった。</p> <p>②サービスの周知 【取組】 主任学校司書が配置されている高校を訪問し、協力貸出の説明や、学校図書館の利用状況やニーズ等の聞き取りを行った。 訪問校:4校 県立高校校長会、副校長会において、サービス説明を実施した。利用マニュアルの作成と配布を行った。</p> <p>【評価・課題】 学校訪問を継続しニーズをしっかりと把握するとともに、学校司書や司書教諭へのサービスの周知が必要である。</p>	<p>①学校図書館の要望に応じた資料のまとめ貸し 【取組】 高等学校での利用も念頭に置いた貸出セットの作成を行っている。 新規貸出セット数:43セット 貸出実績:26校(私立含む) 691冊</p> <p>【評価・課題】 訪問を実施した学校から、貸出依頼等の反応があった。図書館と学校司書が直接やり取りすることが難しい。 令和2年度から物流サービスの対象を拡大し、高知市内校、私立高校が利用可能となった。利用の手引きを作成し、来年度早々に県立学校へ広報するよう準備する。</p> <p>②サービスの周知 【取組】 主任学校司書が配置されている高校を訪問し、協力貸出の説明や、学校図書館の利用状況やニーズ等の聞き取りを行った。 訪問校:4校</p> <p>【評価・課題】 学校司書や司書教諭への周知が必要である。担当職員がいないため、訪問等によるPRが十分にできない。</p>	<p>○防災や部活動、生徒や教員の息抜きになる資料など、どの学校でも需要がありそうなテーマを中心にセットを作成する。</p> <p>○一定数のセットと物流環境を用意したうえで、来年度初頭にできるだけ多くの学校を訪問ができるよう準備を進める。</p> <p>○県立校長会での周知や教育センターを活用した周知を図る。</p> <p>○協力やサービスPRを行うため、担当職員を置き、連携の強化に努める。</p> <p>○実業高校や読書環境が厳しいと考えられる小規模校への訪問も行う。</p>

大項目	中項目	サービス計画本文 (Plan)	令和元年8月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～8/31のもの(注釈のあるものを除く)	令和2年3月末までの【取組状況】(Do) それに対する【評価・課題】(Check) ※実績データは4/1～3/31のもの(注釈のあるものを除く)	今後の『改善』 (Action) (課題があれば対策を 意識して記入)
	(4) 中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携	<p>オーテピア高知図書館の持つ、図書館資料や情報、司書の専門性、利用しやすい場所といった資源を活用しながら、地元商店街等と連携・協力した取組を行うことにより、中心市街地活性化に寄与します。</p> <p>また、産学官民連携センターや県立大学永国寺キャンパス、高知城歴史博物館等の周辺施設との連携・協力した取組を行うことにより、お互いに持っている強みや機能をさらに充実・強化し、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげていきます。</p>	<p>① 中心市街地活性化への寄与 ○ 商店街や日曜市等の情報発信 【取組】高知市公式Webサイト中「おまちと商店街のイベント予定」にてイベント情報の発信を継続。日曜市や商店街イベントのチラシやパンフレットを希望に応じて館内に設置している。</p> <p>【評価・課題】Webを見ない方にはイベント情報が伝わらない。</p> <p>○ 商店街との協働 【取組】第12回得する街のゼミナール「津波からのサバイバル！館長からの挑戦状」イベントを実施(参加者数 5/4:31名、5/11:29名)。11月のまちゼミ企画を検討中。 第45回土曜夜市に出店(7/6)。図書館くじ、短冊作りイベントを実施(くじ配布数:1,206枚)。</p> <p>【評価・課題】まちゼミ全体の受講者数が、H28以降最多であったことについて、メディア掲載に加えオーテピアでのチラシ配布が効果的であったとの評価を得た。 土曜夜市の図書館くじは好評で次年度以降も実施したいが、列に並ぶ人数が多くなり対応の検討が必要。</p>	<p>① 中心市街地活性化への寄与 ○ 商店街や日曜市等の情報発信 【取組】高知市公式ウェブ・サイト中「おまちと商店街のイベント予定」(市商工振興課とりまとめ)にて情報を発信中。オーテピア1階のチラシスタンドにウェブ・サイトのQRコード付きの紹介掲示物を貼付。また、オーテピア高知図書館ウェブ・サイトやFacebookにも紹介記事を掲載した。 高知市に寄贈された日曜市模型をオーテピア3階に設置。日曜市や商店街イベントに関するチラシやパンフレットは、希望に応じて館内に設置している。 【評価・課題】周知の手段を増やしたことにより、多くの方に情報を届けることができるようになった。</p> <p>○ 商店街との協働 【取組】声と点字の図書館とともに土曜夜市(7/6)へ参加。図書館くじ等を実施(科学館からは科学グッズを提供してもらい設置)。 第13回得する街のゼミナール「お宝」カレンダーを作ろう！を実施(11/21:8名、11/23:12名)。 「土佐のおきやく」(3/14～3/15)へのブース出店の依頼があり、参加を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベント自体が中止となった。 【評価・課題】第12回のまちゼミ全体の受講者数が、平成28年(第6回)以降最多であった。メディア掲載やオーテピアでのチラシ配布が効果的であったと結果報告会の場で評価された。 第13回まちゼミでは、収蔵品データベースの活用についてPRできた。この講座をきっかけとして、県立大学エスコーターズ、県工業振興課が、中心市街地活性化や地産外商で使ってみたいと、収蔵品データベースに興味を示している。</p>	<p>○ 今後も継続して情報を発信していく。</p> <p>○ 引き続き、魅力のあるイベントを企画し、参加していく。チラシ配布等、まちゼミPRを積極的に行っていく。</p> <p>土曜夜市ブースでの図書館くじは非常に好評だったが、参加者がかなり並ぶ状況であったので改善策を考える必要がある。</p>

②周辺施設との連携

○文化施設との連携

【取組】高知城歴史博物館や文学館が実施する企画展示に関連した本の展示等を館内で実施。周辺文化施設のイベントチラシやポスターの掲示による情報発信を実施。お城下ネット6施設の概要とイベントを掲載した『2019年度お城下文化手帳』を作成、配布。高知城歴史博物館の企画展示関連イベントとして、高知城歴史博物館、高知みらい科学館とともにスタンプラリーを実施(6/29～9/2)。

【評価・課題】上記スタンプラリーについては、当館展示室への入室者の大幅な増につながった。

②周辺施設との連携

○文化施設との連携

【取組】①高知城歴史博物館や文学館が実施する企画展示に関連した本の展示等を館内で実施。
②周辺文化施設のイベントチラシやポスターの掲示による情報発信を実施。
③『2019年度お城下文化手帳』を作成・配布。
④6/29から高知城歴史博物館の企画展関連イベントとして、高知城歴史博物館・高知みらい科学館とともにスタンプラリーを実施。
⑤11/17開催「お城下文化の日」にはブースを出してリサイクル図書の配布を実施(県市の合計:約1,600冊)。また、お城下文化の日になんだ講演会「大道芸で大笑い!～土佐の寅さんと楽しむ七五調のことば遊び～」を開催(62名)。
【評価・課題】④については、期間中に当館展示室で企画展示「熱海の殿様の書斎-田岡典夫文庫展-」を開催していることもあり、入室者の大幅な増加に貢献した。

○今後も周辺文化施設と積極的な連携を実施し、互いの利用促進につなげていく。

○教育・産業支援施設との連携

【取組】周辺施設と連携し出前図書館で図書館の資料を提供した。

5/9「おためしMBA（県産学官民連携センター）」

6/5「土佐MBA本科会計コース 第1講（県産学官民連携センター）」

6/16「スタートサロン10（県産学官民連携・起業推進課）」

7/3「土佐MBA本科経営戦略コース第1講（県産学官民連携センター）」

県産学官民連携・企業推進課職員に向け、ビジネス支援サービスを紹介する講座を実施した（5/10、5/22）

【評価・課題】県産学官民連携センター、県産学官民連携・企業推進課との連携が順調に進んでいる。「土佐経営塾」では、主催者、講師、図書館が一体となって、図書館活用を促すことができている。

○教育・産業支援施設との連携

【取組】周辺施設と連携し出前図書館で図書館の資料を提供した。

5/9おためしMBA（高知県産学官民連携センター）

6/5土佐MBA本科会計コース 第1講（高知県産学官民連携センター）

6/16、9/15、10/20、11/17、1/19スタートサロン10（高知県産学官民連携・起業推進課）

7/3土佐MBA本科経営戦略コース第1講（高知県産学官民連携センター）

10/1土佐MBA本科事業創出コース第1講（高知県産学官民連携センター）

10/23土佐MBA本科組織・人的資源マネジメントコース第1講（高知県産学官民連携センター）

高知県産学官民連携センターが事業者・起業家支援のために開催する『土佐経営塾』9/16開講式&セッション1、10/21セッション6をオーテピア4階ホールで開催。開校式では図書館活用講座（30分）を実施した。講師からも講義の中で図書館の活用について伝えていただいた。

支援機関職員から支援機関利用者に図書館を紹介できるよう、高知県産学官民連携センター、高知県産学官民連携・起業推進課職員に向け、ビジネス支援サービスを紹介する講座を開催した（5/10、5/22）。

ジョブカフェこうちが7/31、8/21に当館で開催したキャリア教育イベント「親子みらい×ワーク研究室」で、参加児童に対して図書館PRを行った。

【評価・課題】高知県産学官民連携センター、高知県産学官民連携・起業推進課との連携が順調に進んでいる。

『土佐経営塾』での図書館活用促進は大変理想的な事例と評価できる。

高知県産学官民連携・起業推進課の『ビジネスプランコンテスト』では、支援機関が応募者に図書館を紹介し、レファレンス等での情報支援ができていた。

○支援機関職員へのPRを継続して行い、図書館を紹介していただくよう働きかける。